

## 「第2回 棒サッカー大会」のボランティアに参加する

秋晴れの11月27日(金)、千里体育館第一競技場で棒サッカー大会が開催されました。会場は特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、デイサービスなど、高齢者施設の16チームが参加され大盛況です。選手の皆さんは要支援から要介護5までの認定を受けた要介護者の方々に、鉢巻をしめたり、おそろいのユニホームを着たり、勝負の気合い十分です。

開会式が終わり、コートを挟んで1チーム各11名の選手が車椅子、椅子に座り、いよいよ試合開始です。一人ひとりカラフルな棒を使って、ボールをゴールめがけて打ち込みます。ゴールに入ると1点の得点が入ります大喜びしたり、悔しがったり、作戦を練ったり、勝つ目的に向かってチーム一丸となり必死です。私たちボランティア(わかばの会から13名)も、余りの白熱ぶりに椅子が倒れないよう支えたり、夢中になって大声で声援したり喜んだり、選手の皆さんとすっかり仲間になりました。閉会式では優勝チームにカップ、メダル、表彰状がわたされ「また、来年逢いましょう」と再会を約束して各施設の車で帰路に着かれました。



棒サッカーの試合を初めて見て、要介護者の皆さんのいつもとは違う闘争心、歓喜、悔しさ、仲間意識などの豊かな感情表現やスポーツを楽しみ、挑戦されている元気な姿に驚きました。スポーツが日常の生活にも、介護の予防にも役立つことと実感しました。高齢者のレクリエーションがここまで発展し、要介護高齢者のスポーツとして確立され、色々な施設が一堂に集まり大会が開催運営されていることにも驚きです。今年はガンバ大阪も後援にいられたとのこと、今日の大会に150名のボランティアの参加があったとのことのお話など、感動をいっぱい頂いた一日でした。(久保木幸代)

## 遊友会「長岡天神と光明寺の紅葉を訪ねて」

11月29日(土)、出発時は大変な雨で、催行があやぶまれる空模様でしたが、長岡天神駅到着のころには雨も止み、参加者18名は一路長岡天満宮へと向かいました。天満宮参拝のあと、おもいおもいに境内で彩りあざやかな紅葉を愛で、足もとには銀杏、楓、



桜、樺の落葉が露地を埋めつくし、まさに「錦織りなす」さまでした。境内の池の中の回廊で早目の昼食をとり、目的地光明寺に到着の頃は、天気はすっかり回復し秋晴れの好天となりました。

この光明寺、建久9年(1198年)開祖は法然上人だそうです。創建に力を尽くしたのは源平合戦一の谷の戦いで有名な熊谷治郎直実が戦乱に生きた自らの罪の深さを悔いて、この地で念仏一筋に

暮らした念仏三昧院が前身なのだそうです。広い境内の中は大きく枝をのばした紅葉が随所にトンネルをつくり、周囲の竹林や杉・松のみどりとあいまって見事な景色でした。2時間の自由行動の間、模擬店で茶菓を楽しみ、木漏れ日の中を散策し、西山の深まりゆく秋を心ゆくまで満喫しました。(岡田吉正)